



2021JR総連春闘勝利！ シリーズ⑦

やっぱり低額要求、春闘破壊のユニオン！ 安定的支給ベースを下回る夏季手当要求

このコロナ禍で現場で働く社員は、これまで感染リスクに晒されてきました。感染防止対策を行い、私生活においても自粛を余儀なくされました。感染によるプレス発表へのプレッシャーもあります。このような状況の中、会社は年末手当の大幅減額に加え、睡眠不足の原因となるシーツの取り替えを社員に押し付け、労働者への負担を増大させています。感染リスクを負う社員の気持ちを逆撫でする行為です。

JR東海ユニオンは、一時帰休制度において雇用不安を煽った上、今回の春闘ではベア1,000円、夏季手当2.5ヶ月という低額要求を決定しました。なぜ夏季手当の安定的支給ベース2.7ヶ月を下回る要求なのでしょう？ 組合員の意見に耳を傾けず、経営が厳しいという会社の意見を優先しているのではないのでしょうか？ 「年末手当回答は『安定的支給ベース』から非常に大きく乖離したものであった。次期夏季手当交渉では組合員の負託に応える」との鎌田委員長の言葉は一体何だったのでしょうか？ この要求は、JR東海ユニオンが会社を付度し、組合員の意見を放棄したものです。もはや労働者目線ではありません。

会社経営が厳しいというのなら、リニア建設は継続できないはずですが。JR東海労は、リニア建設が継続できるのは利益剰余金などに余裕があり、会社自ら「健全経営」と主張していること、そして、感染リスクを背負って業務を遂行している社員に対してしっかり報いるべきであるとして、要求額を決定しました。

JR東海ユニオンの低額要求を許さず、JR東海労は組合員のために今春闘を闘います。